



福島南ロータリークラブ

基本方針: 原点を見つめ、みんなのための奉仕を

事務局/〒960-8151 福島市太平寺宇通吹 6-2 ザ・36・メイファイブ 1F2号室
tel. 024-546-3793 fax. 024-545-7878

例会場/サンパレス福島 〒960-8101 福島市上町 4-30
tel. 024-523-3811(代) fax. 024-523-0375

HP アドレス <http://www.inaka.ne.jp/f-southrotary/index.html>



- 会長：紺野仁昭 ■幹事：佐久間 功
- 会報委員長：松崎弘昭 ■副委員長：佐藤朋也
- 委員：斎藤信男 斎藤善重 佐々木孝光 丹治洋子 横山りつ子

第7回例会

平成 24 年 8 月 22 日 (水) サンパレス福島

■会員/66 名 ■出席/43 名 ■出席率/65.15% ■メークアップ/23 名 ■修正/66 名 ■修正率/100%

本日のプログラム

- 1 開会点鐘
- 2 田中作次 RI 会長メッセージ
- 3 来訪者紹介と会長挨拶
- 4 ターゲット贈呈 高橋和之直前会長
- 5 ネパール RC でのメークアップ報告
- 6 会員スピーチ国井元会員増強委員長
- 7 会員スピーチ大野順道会長エレクト
- 8 会員スピーチ金子親房副幹事
- 9 閉会点鐘

会員の広場

葉っぱのフレディ 公演が 8 月 23 日 (木) いわきアリオス、8 月 25 日 (土) 南相馬ゆめはっと、にて開催されました。この公演には福島南 RC の多くの会員も参加し、地区や、開催地元分区のご協力で、招待された子供たちと共に夢と感動をいただき、成功裡に終えることができました。会員皆様のご協力に感謝いたします。

今日の一面記事

政府軍と反体制派の激しい攻防が続くシリア北部の主要都市アレッポで 20 日、取材活動をしていた女性ジャーナリスト、山本美香さんが戦闘に巻き込まれて死亡した。

8 月 22 日 毎日新聞転載

◆R. I. 会長メッセージ◆

国際ロータリー会長 田中作次

平和という概念は、人によって、文化によって異なります。心の平安や家族の幸せ、満足感を指す場合もあるでしょうし、人間の基本的ニーズが満たされた安全な状態を指すこともあるでしょう。平和をどのように定義するにせよ、それは奉仕を通じて達成できる目標です。ロータリーにおいて、奉仕とは、片手間にすることでも、たまに取り組んでみることもありません。奉仕とは生き方です。それは思いやりの心を重んじることであり、調和へといたる道です。生活のあらゆる場面で奉仕を実践することによって、私たちは分かち合いの精神を育み、友好を見出し、平和の道を選ぶことができます。

◆会長あいさつ◆

紺野 仁昭 会長

第7回例会の挨拶をいたします。

本日は RI 田中作次会長の DVD によるメッセージを見ていただきました。会員の皆様に見ていただくことによって会長の思



いがより多く伝わったのではないかと思います。

メッセージの中で、ロータリアンは自分よりも他人のニーズを優先することを説いています。「超私の奉仕」という言葉は“社会全体のことを考えよ”と教えています。それを実践することにより平和な基盤を築くことができます。人はみな自分だけでは生きていくことはできません。家族、地域、人類の中で自分は何をすべきか見えてきます。

人は他人のために生きること、即ち「超私の奉仕」でより良い社会=世界平和へと進んでいくことができます。我々ロータリアンはもとより職業奉仕を通して活動することにより社会の役に立つことができます。

メッセージの中で RI の戦略の 3 つの優先項目に力を注ぎましょうという話がありました。題目は何か大きなことと思われそうですが、意味するところは些細なことでも、重ねれば大きな力になるということです。今月は会員増強月間です。会員の皆様にはこれを念頭において、一人でも多くの仲間を増やしてほしいと考えます。

◆ネパールの首都でメークアップ◆

佐藤 朋也 会報副委員長



8 月 12 日、旅先のカトマンドゥのホテルでたまたま RC の例会が開催されることを知り、多少不安はありましたが思い切ってメークアップをしてきました。持参しなかった会員証の代わりに、モバイルに貼り付けておいた RC のシールを提示したところ、Oh. ウェルカムと歓迎してもらえることになりました。例会は 40~50 名ほどの会員の参加で粛々と進みましたが、いかんせんネパール語が全く理解できず内容は不明でした。例会後の立食パーティーでは、エベレストという名の地元のビールをおいしくいただきました。

◆会員スピーチ◆

国井 元 会員増強委員長



第 2530 地区会員増強セミナーが去る 8 月 4 日南東北総合卸センターで開催されました。各クラブの運命を担っておられる会長はじめ幹部の皆さんに会員増強の必要性を理解してもらおうと大切に考えています。ロータリーの目的は各々の企業活動の根本に“奉仕”の理念を置いてそれを磨き上げることだと考えています。

会員増強のネックとなるいくつかの問題点は何点かありますが、要は会長、幹事、増強委員長の本気度次第と思っています。会員増強の具体的方法はいくつかありますが、各クラブの特性があり、クラブにふさわしい戦略を立てていただければと考えます。

会員増強をできない理由を探すより、できる方法を探すことを心がけましょう。

先人の言葉の中から 1 つ、「人生とはすばらしい。一心不乱に努力する人には、天は人知をはるかに超えた不思議なほどの出会いを演出してくれる」会員増強活動もまたしかりです。

◆会員スピーチ 私の職業奉仕観◆

大野 順道 会長エレクト



福島の灯籠流しも終わり、私の職業奉仕もひと段落。西風が吹き微涼を生じ、庭にはトンボが飛んできて福島の夏も終わりを告げようとしています。

さて、ロータリーでの職業奉仕の真髄は、アーサー・フレデリック・シエ

ルドンが言った言葉 “He profits most who serves his fellows best” (仲間に最も良く奉仕するものは、最も多く報いられる) に代表されると捉えられています。その後、数多くの議論がなされ内容も深化してきました。元の原文の “He” の代わりに “One” が使われるようになりました。

さて、日本には伝教大師 (最澄) に有名な「一隅を照らす 即ち此れ国宝なり」という言葉があります。意味するところは極めて含蓄のある言葉ですが、要は「自分の職業を天職と心がけて一生懸命仕事をする人は、人から尊敬を受ける人で、その人こそ幸せな人と言える」ということであります。

日本では 1200 年前にこのような素晴らしい考えを持った人がおりました。私の職業奉仕もこのようにありたいと思っています。

◆会員スピーチ 私の職業奉仕観◆

金子 親房 副幹事



当クラブには平成 20 年 7 月 1 日入会させていただきました。クラブの組織として各種の組織がありますが、職業奉仕の「奉仕」とは聖職等の特殊の方に該当することではないかと思っていました。

職業とは生活の根幹で、その土台は利益を追求する企業であり、経済行為が中心で奉仕とは相いれないものと感じておりました。多少の疑問を残したまま、ロータリーの活動を実践する中でようやく辿り着いたところが、先ず自分の会社を成長させ、その豊かさの中でより豊かな生活ができるようにすることだと気づきました。

その考えを基盤に多くのことを心がけていますが、特に、コンプライアンス (法令遵守) と求人情報を多くの方に提供する場の工夫という点について気を使っています。雇用の充実こそが生活の豊かさに結び、企業にとって人材は発展・成長に必要な不可欠な条件であり地域経済の安定、成長に寄与するものと確信しています。

今月・来月のプログラム

8 月 29 日 (水)	会員スピーチ 植木 洋司 会員 成蹊高校 IAC 例会 16:45~
9 月 5 日 (水)	新入会員入会式 会員スピーチ 高橋 勇雄 会員
9 月 12 日 (水)	ガバナー補佐訪問 第 4 回理事会

一編集後記一

編集委員としてテープ起こし、記事の要約等初めての業務で戸惑いました。次回はスムーズにできるようにしたいと思います。(斎藤信)